

まだ、準備をしていなければ、
準備をしておかないと、
老後の生活で支障を起こしかねない、
3つのことをお話いたします。

なお、ここでいう老後の生活とは、
主な家計の収入が、
年金になってからの生活を言います。

老後の生活を準備する時期

老後の生活を準備する時期は、
勤めている間です。

具体的には、
給与収入や事業収入がある期間です。
つまり、現役の間です。

言い換えれば、
冒頭で定義した、
年金生活に入ってから、
老後の生活を考え始めては、
遅いと言えます。

では、それまで準備しておく3つのことを、
順番にお話していきます。

(1) 老後の生活を描いておく

まず、定年退職した後に、
どのような生活をしたいのか、

ご自身やご夫婦で描いておくことです。

例えば、現役の時、
サラリーマンの方であれば、

基本的に、
勤務中は、勤務先に拘束され、

言い換えれば、
勤務中は、勤務先が、
ご自身のスケジュール決めてくれて、

休日のみ、
ご自身で決めればよかったです。

しかし、老後の生活では、
1日24時間、
1年365日のスケジュールは、
基本的には、
ご自身で決めることになります。

確かに、老後の生活に入ったら、

勤務中にはできなかった、
様々なことをしたいと、
そのリストを書き出したら、
膨大な数になった、
と、言っていた方もいます。

しかし、具体的に、
老後の生活に入ったら何をしたいのか？

やりたいことはあっても、
収入が減るのに、
お金を使っても良いのか？

そのように考え始めると、
なかなか行動を起こせないことも確かです。

時間があるので、
まずはのんびりして、

老後の生活に慣れたら、
それから、やりたいことを始めよう！
と、思っていると方の中には、
70代、80代と、
何もしないうちに、歳だけ経ってしまった。

と嘆かれた方も私は存じ上げています。

また、老後の生活では、
地域ボランティアをして、
地域に貢献しようと思っても、

何十年と、
自宅と勤務先との往復する生活が身についていると、

具体的に、
住んでいる地域では、
どんな活動をしているのか、
すぐにはわからない場合もあります。

また、ボランティアの活動に
いざ参加してみたけど、
ご自身の想いとは違った活動をしていた。

ということもあるようです。

このようなことにならないためにも、

まずは現役中に、
老後の生活を描がき、

老後生活に入ったら、
自宅を中心とした生活圏で生活ができる
準備をしておくことです。

準備をしている間に、
今まで知らなかった、
新しい知識も入ってくることもあるでしょう。

その時は、必要ないと思っても、
思ってもいなかった、
コロナ禍のような事態が起こった場合の、
行動計画を変更せざる得なくなった場合に、
得ていた知識も活用ができるかもしれません。

(2) 生涯の家計収支を把握しておく

老後の生活に入って、
心配することのひとつに、

今後、生活費が枯渇しないか、
と、ということです。

私のところに、
相談にみえる方もいます。

その時に、
必ず聞くことに、

現在の家計収支と、
貯蓄額や資産の額です。

その数字を基に、
平均寿命プラス5歳くらい先までの、
家計収入をシミュレーションしてみます。

ここでのポイントは、

年金が主な収入で、
現役の生活を維持していくためには、
生涯、貯蓄が無くならないように、
貯蓄取り崩していかなければならず、
取り崩していく金額を決めることです。

そのベースとなるのが、
現役時代の家計収支の具体的な金額です。

なお、シミュレーションの結果、
このままでは、
将来、家計収支が成り立たないことがわかれば、

老後生活で、
収入を増やすことは難しく、
支出を減らす検討をすることになります。

例えば、毎月の生活費を、
5000円ずつ減らせば、
1年間で6万円
10年間で60万円
15年間で90万円
20年間で120万円、

支出削減の効果が生まれます。

この数字を達成することは、
そんなに難しいことではなく、
単に、節約に心がければ、
具体的な策を講じることもないかもしれません。

しかし、シミュレーションの結果で、
毎月3万円減らさなくてはならない場合は、
1年間で36万円
10年間で360万円
15年間で540万円
20年間で720万円の効果生まれます。

この数字を達成するためには、
毎月の水道光熱費などを節約するなど、
固定費と呼ばれる、
毎月支出するお金を削減することが必要になります。

また、戸建てのマイホームなどの
資産を保有していても、
老後の生活がおぼつかない場合は、
リバースモーゲージやハウスリースバックなど、
持ち家に従来通りに住みながら、
そのマイホームを
担保としてまた、売却して、
今後の生活の資金を手当てする方法もあります。

これらの商品の、
詳しい内容やメリットデメリットは、
ここではお伝えいたしません、
興味のある方は、
取扱っている金融機関に照会してみてください。

家計収支が把握できていない、
また、前項の（1）でお話ししました、
老後の生活を描いておかないと、

先行きが不安になり、
描いておいたことが何もできないまま、
お金の心配をするだけで、

心身とも老いてしまいかねません。

これまでに、
家計収支を把握したことがない方は、
最初は時間がかかるかもしれませんが、

老後の生活の不安のひとつを取り除くためにも
ここは、まず現在の家計収支を把握し、
それから老後の家計収支を推測すべきです。

(3) 家計の財布はひとつ

3つ目も家計に関連することです。

よく言われていることですが、
家計の財布は、
ひとつにしておくことです。

真っ先に、
夫婦お互いに必要になるのが、
お互いの年金収入の額であることは、
異論のないところだと思います。

しかし、この(3)も実行するには、
準備に時間がかかります。

老後生活に入って直ちに、
実行するには、
それこそ、お互いが教え合うことを
受け入れるまでの時間が必要で、
現役の間からの準備が必要です。

最近では、夫婦共稼ぎという言葉自体、
使われないように思います。

男女ともに働く時代になりました。

働いた報酬である給与は、
夫婦それぞれの銀行口座に振込まれて、
その口座の管理は、
その口座の名義人がするのか、
奥さまが、
ご主人の分を含めて一括で管理するのか、

そこは、ご家庭ごとに取り決めがあるでしょう。

しかし、家計からの支出は、
電気料金であれば、
口座から振替える家庭もあれば、
クレジットカードなどで支払う家庭もあるでしょう。

その口座が、
ご主人の給与振込口座と同じか、
支払い用の口座を別途作り、
ご夫婦の収入から、
お互い決めた金額をその口座に入金して、
支払っているか、
それはご夫婦で決めることですが、

どちらにしても、
家庭に必要な支出を支払う口座は、
家庭ごとに決めているのです。

現役の時代は、
夫婦がお互いに、自分の口座は管理する。
と決めていても、
それでよかったかもしれません。

しかし、老後の生活に入って、
主な収入が年金となった場合に、

夫婦の年金収入を合算しないと、
生活がしていけないのが現実です。

老後の生活費を補うために、
現役の時代に保険商品である、
個人年金保険で積み立てをしておいた。

では、その原資は夫婦どちらが稼いだお金？
とも言われないう世の中なのです。

従って、老後の生活の準備として、
現役の時代から、
家計の財布はひとつにしておくべきでしょう。

なお、ご夫婦お互いの資産を把握しておかないないと、
どちらかが先に亡くなった場合はともかく、
お二人とも亡くなった後、

その資産を相続する子どもに、
思わぬ金額の相続税の納付が必要なる場合もあります。

また、家計の財布がひとつにできない場合、
ご夫婦お互いに生活力があれば、
熟年離婚の原因にもなりかねません。

*****:
■「人生の添乗員 (R) 」からのワンポイントメッセージ
*****:

老後の生活の準備は、

現役の間にしておかないと、

老後の生活に間に合いません。

*****:
■人生の添乗員 (R) 牧野寿和のプロフィール
*****:

日本で唯一「人生の添乗員 (R) 」を名乗れる

公正中立な独立系ファイナンシャルプランナー

開業 17 年目

1958 年 名古屋市生まれ、大学（東海大学卒業）以外は、名古屋で生活をする。

1982 年～2001 年 旅行会社に勤務。業務で世界各地を廻っていた時、
日本の方と他国の方々のお金との付き合い方の違いを感じていた。
そんな時渡米した折に、初めてファイナンシャルプランナーの存在を知り、
日本でもこの業務の必要性を認識する。

2003 年 牧野 FP 事務所を創業。
2018 年から牧野 F P 事務所合同会社を設立。

これまでに、延べ 900 件以上の様々な相談に対応。

現在は、相談者へのプランニングの助言と提案を主な業務とし、

相談者に、安心できる生活が送れるように、

丁寧な業務を心がけている。

<保有資格>

- ・ NPO 法人日本ファイナンシャルプランナーズ (FP) 協会 CFP (R) 認定者
- ・ 1 級ファイナンシャル・プランニング技能士 (資産設計提案業務)
- ・ 福祉住環境コーディネーター
- ・ 総合旅行業務取扱管理者 など

<取材協力>

メ〜テレ (名古屋テレビ) 「UP!」

<出版>

「銀行も不動産屋も絶対教えてくれない!
頭金ゼロでムリなく家を買う方法」河出書房新社

<監修>

「空き家」に困ったら最初に読む本」河出書房新社

現在、相談を受けている方は、名古屋市内はもとより
愛知、岐阜、三重県、
ご紹介をいただいて、首都圏や関西にも
足を延ばす機会が増えてきました。

「人生の添乗員 (R)」は、どこまでも行きます。

他人を気にすることなく、
相談者ご自身にとって
有益な提案を心がけています。

■編集後記

新婚のご夫婦から、

これからの家計を作っていく、
アドバイスを求められることがあります。

その時も、家計の財布はひとつ、
とお話をします。

この提案は、
共稼ぎをされていたご両親からも、
聞かれることが多くなっているようです。

ただ、具体的な方法は、

決めかねていることもあるようです。

家計の財布はひとつ

当たり前のことですが、

個々に収入の口座を持っていると、
家庭ごとにその方法を決めて、
それこそ、生涯資金の運用するには、
紆余曲折があるようです。

でも、必要なことなのです！

【人生の添乗員(R)】からのワンポイントメッセージ

来週もご愛読のほど、
よろしく願い申し上げます。

「人生の添乗員」「人生の行程表」は牧野寿和の登録商標です

■ 【人生の添乗員(R)】からのワンポイントメッセージ

発行：

牧野FP事務所合同会社 代表社員 牧野寿和
〒467-0823 名古屋市瑞穂区津賀田町2-86

■登録・解除は、ご自身でお願いいたします。
こちらから出来ます。

<http://www.mag2.com/m/0001575058.html>

■本メルマガに関するご意見・お問い合わせはこちらまで
お願いいたします

E-MAIL : makino.fp@beach.ocn.ne.jp

牧野FP事務所合同会社 公式サイト : <https://www.makino-fp.com>

■記事内容に関してのトラブル等について当方では一切責任を負いかねます。
ご自身の責任でご判断下さい。
